

# 生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深める音楽科学習指導の工夫 — 学校外における音楽活動を取り入れた「課題発見・解決学習」を通して —

吳市立豊小学校 三井 明子

## 研究の要約

本研究は、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深める音楽科学習指導の工夫について考察したものである。国の調査や文献研究より、本研究における生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めるとは、学校内と学校外の音楽活動をつなげて捉え、音楽に対する感性を働かせ、児童自らが生活や社会の中の音や音楽の意味や価値を見いだすことと定義した。児童は、地域の老人ホームで歌を発表するという学校外における音楽活動を取り入れた「課題発見・解決学習」を通して、お年寄りの思いに応えるためにどのような会にするといいかという視点で、題材を貫く課題を常に意識しながら、主体的に選曲したり歌唱表現の工夫を考えたりすることができた。また、振り返りの場面では、学校外の音楽活動で得られた喜びや音楽のよさに気付くことができた。このことから、本研究は、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めさせるために有効であることが分かった。

**キーワード：音や音楽の働き 意識を深める 学校外 「課題発見・解決学習」**

## I 研究題目設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年）音楽（以下「29年指導要領」とする。）の目標では、「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」<sup>①</sup>の育成を目指すことが示されている。小学校学習指導要領解説音楽編（平成29年、以下「29年小学校解説」とする。）では、改訂の趣旨及び要点について基本的な考え方の一つに「音や音楽と自分との関わりを築いていくよう、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深める学習の充実を図る。」<sup>②</sup>とある。また、中学校学習指導要領解説音楽編（平成29年、以下「29年中学校解説」とする。）では、音楽科の学習が、その後の学習や生活とどのように関わり、どのような意味や価値をもつのか、生徒が意識を向ける場面を位置付けるなどの工夫が必要であり、このことが音楽科の学習の有用性を認識することにもつながると示している<sup>(1)</sup>。

国立教育政策研究所「小学校学習指導要領実施状況調査」（平成27年）において、「音楽の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は47.7%にとどまっている。これまでの自身の実践でも、授業の学びを生活や社会につなげるような働きかけが十分ではない。これらのことから、音楽科に

おいては、授業の学びが生活の中で生きてくるという実感をもてるような指導の改善・充実を図ることが必要であると考える。

そこで、第4学年の歌唱分野の題材において、学校外における音楽活動を取り入れた「課題発見・解決学習」を設定する。地域の特別養護老人ホームで歌を発表するという実行の場面を設定し、授業の学びを生活や社会へとつなげて捉えさせ、聴き手が学校外の人になることで、児童に課題を発見させる。題材の終末では、音楽科の授業以外の場面で得られた音楽活動の喜び等について振り返る活動を取り入れる。このような「課題発見・解決学習」を通して、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めさせることができると考え、本研究題目を設定した。

## II 研究の基本的な考え方

### 1 生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めるとは

#### (1) 生活や社会の中の音や音楽について

「29年小学校解説」では、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力について、「児童の生活や、その生活を営む社会の中には、様々な音や

音楽が存在し、人々の生活に影響を与えていた。したがって、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することによって、児童がそれらの音や音楽との関わりを自ら築き、生活を豊かにしていくことは、音楽科の大切な役割の一つである。生活や社会における音や音楽との関わり方には、歌うこと、楽器を演奏すること、音楽をつくること、音楽を聞くことなど様々な形がある。」<sup>3)</sup>と示されている。また「29年指導要領」の指導計画の作成と内容の取扱いでは、「児童が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、児童や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わっていくことができるよう配慮すること。」<sup>4)</sup>と示され、「29年小学校解説」の指導計画の作成と内容の取扱いでは、「音楽科の学習で学んだことやその際に行つた音楽活動と、学校内外における様々な音楽活動とのつながりを児童が意識できるようにすることは、心豊かな生活を営むことのできる社会の実現に向けて、音楽科の果たす大切な役割の一つである。」<sup>5)</sup>と示されている。このことから、児童の生活や社会の中には様々な音や音楽が存在しており、児童自らがその様々な音や音楽に関わり、学校内と学校外の音楽とのつながりを意識できるようにしていくことが大切であることが分かる。

## (2) 生活や社会の中の音や音楽の働きについて

「29年中学校解説」において、「音や音楽によって心を落ち着けたり、やる気を奮い起こしたり、喜びや悲しみを共有したり、一体感を味わったりするなど、音や音楽は生活や社会と密接な関わりをもつている。」<sup>6)</sup>と示され、さらに、「オリンピック・パラリンピックや各種イベント等では、音楽によって一体感が生まれることなどを多くの人々が実感している。(中略) また、自然災害等で困難な状況に身を置かざるを得なくなった際、音楽によって傷ついた心が癒やされたり、被災した人同士や被災した人と被災していない人など、人々の心がつながったりすることを経験している人もいる。このように、音楽は生徒を取り巻く生活や社会において、音楽ならではの価値ある役割を果たしている。」<sup>7)</sup>と示されており、音や音楽は、生活や社会と密接な関わりをもち、心の働きに果たす役割が大きいことが分かる。この心の働きに関わることについて「29年小学校解説」では、「『音楽に対する感性』とは、音楽的な刺激に対する反応、すなわち、音楽的感受性と捉えることができる。また、音や音楽の美しさなど

を感じ取るときの心の働きを意味している。音楽に対する感性を働かせることによって、音楽科の学習が成立し、その学習を積み重ねていくことによって音楽に対する感性が一層育まれていく。」<sup>8)</sup>と示されている。このことから、音楽科においては、感性を働かせることが大切であることが分かる。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(平成28年、以下「中教審答申」とする。)の別添8-1<sup>2)</sup>では、「学びに向かう力・人間性等」について表1のように示されている。このことは、感性を働かせることに関わることと捉える。

表1 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)別添資料8-1(小学校)

学びに向かう力・人間性等
・リズム感、旋律感など音楽の特性を感じ取る感性
・協働して音楽活動する喜びの実感
・音楽の学習に主体的に取り組む態度
・音楽を愛好する心情
・生活の中の様々な音や音楽への気付き
・音楽経験を生活に生かし、生活を明るく潤いのあるものにする態度
・我が国や諸外国の音楽に親しみ、それらを大切にする態度
・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操

表1を基に、本研究における生活や社会の中の音や音楽の働きを、音楽に対する感性を働かせるという視点と、学校内と学校外の音楽をつなげて捉えるという視点から、次のように整理する。

- ・協働して音楽活動をすることを通して、喜びを生み出すこと。
- ・音楽経験を生活に生かすことを通して、生活を明るく潤いのあるものにしていくこと。

このような音や音楽の働きは、音楽科の学習だけにとどまらず、生活や社会において、また生涯にわたって関わっていくものであると考える。

## (3) 意識を深めるとは

「29年小学校解説」において、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するためには、児童が学んでいること、学んだことを、自覚できるようにしていくことが大切だと述べられている<sup>3)</sup>。また、「中教審答申」では、「生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から学んでいること、学んだことの意味や価値を自覚できるようにし、このことによって、音楽文化についての理解を一層深めることにつなげられるようにすることが重要である

る。」<sup>9)</sup>と示されている。このことから、児童自らが生活や社会の中の音や音楽の働きについて意識を向けることが大切であり、また、そこに（2）で整理したように、意味や価値を見いだすことが大切であると考える。

#### （4）生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めるとは

（1）（2）（3）より、本研究における生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めるとは、「学校内と学校外の音楽活動をつなげて捉え、音楽に対する感性を働かせ、児童自らが生活や社会の中の音や音楽の意味や価値を見いだすこと」と定義する。

## 2 学校外における音楽活動を取り入れた「課題発見・解決学習」とは

### （1）音楽科で「課題発見・解決学習」を取り入れることについて

広島県教育資料（平成29年、以下「教育資料」とする。）では、主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」を推進することが示されており、平成30年度の全県展開に向けて、各教科等の学習において実践されるよう取り組まれている<sup>(4)</sup>。

「教育資料」では、「『課題発見・解決学習』とは、児童生徒が自ら課題を見付け、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく学習である。」<sup>10)</sup>と示されており、「課題発見・解決学習」は、〔課題の設定〕〔情報の収集〕〔整理・分析〕〔まとめ・創造・表現〕〔実行〕〔振り返り〕などの活動が何度も繰り返され、スパイラルに高まっていくものであり、特に、〔課題の設定〕〔整理・分析〕〔振り返り〕に充実を図ることが求められると述べられている<sup>(5)</sup>。

「29年小学校解説」では、「児童が音楽科の学習内容と学校内外の音楽活動とのつながりを意識できるようにするためにには、授業で学んだことを、音楽科の授業以外の様々な場面で発表したり、そのことによって得られた音楽活動の喜びについて振り返ったりするなどの活動を、適宜、取り入れるなどの工夫が必要である。」<sup>11)</sup>と示されている。このことから、「課題発見・解決学習」において、〔実行〕の場面で学校外の音楽活動を設定したり、〔振り返り〕の場面の充実を図ったりすることは、音楽科でも効果的であると考える。そこで、学校外で歌を発表するという〔実行〕の場面を設定することで、学校内と学校外の音楽活動をつなげて捉えさせ、児童自ら

が〔課題の設定〕をすることで、児童の主体的な学びが生まれるようにしていく。また、〔振り返り〕の活動を大切にすることで、学校外の音楽活動とのつながりを客観的に捉えることができ、新たな課題の設定につなげができると考える。

このような考え方から、本研究では、児童自らが課題を見付け、主体的な学習を進められることが期待できる「課題発見・解決学習」を取り入れ、特に〔課題の設定〕〔実行〕〔振り返り〕の場面に充実を図っていく。

### （2）「課題発見・解決学習」を取り入れた授業の実際

本研究における「課題発見・解決学習」の過程のイメージを図1に示す。

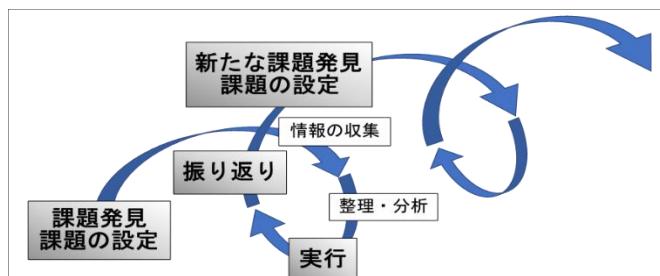


図1 本研究における「課題発見・解決学習」の過程のイメージ

本研究で充実を図っていく、〔課題の設定〕〔実行〕〔振り返り〕の場面について次に述べる。

〔課題の設定〕では、学校外とのつながりを意識させるために、地域の老人ホームのお年寄りから手紙が届く場面を設定する。「子供たちの歌を聴きたいのだが、老人ホームに来て、学校で学習した歌や季節の歌などを聴かせてほしい。」という児童への期待が込められた手紙が届くことで、老人ホームへ歌いに行きたいという児童の主体的な気持ちを引き出す。聴き手が学校外の老人ホームのお年寄りという相手意識をもたせることで、授業の学びを学校外へとつなげて捉えられると考える。そして、手紙に込められた思いやその思いに応えるためにどうしたらいいか考えさせ、「お年寄りの思いに応えるためにどのような会にするといいか」という視点で、題材を貫く課題を設定させる。題材を貫く課題を常に意識しながら、何を歌うか、どのように歌うか等、場面に応じた課題を児童自らが見付け、主体的に取り組むことができると考える。

〔実行〕では、題材を貫く課題に合う曲を選んで表現を工夫した歌を、老人ホームで発表する。聴き

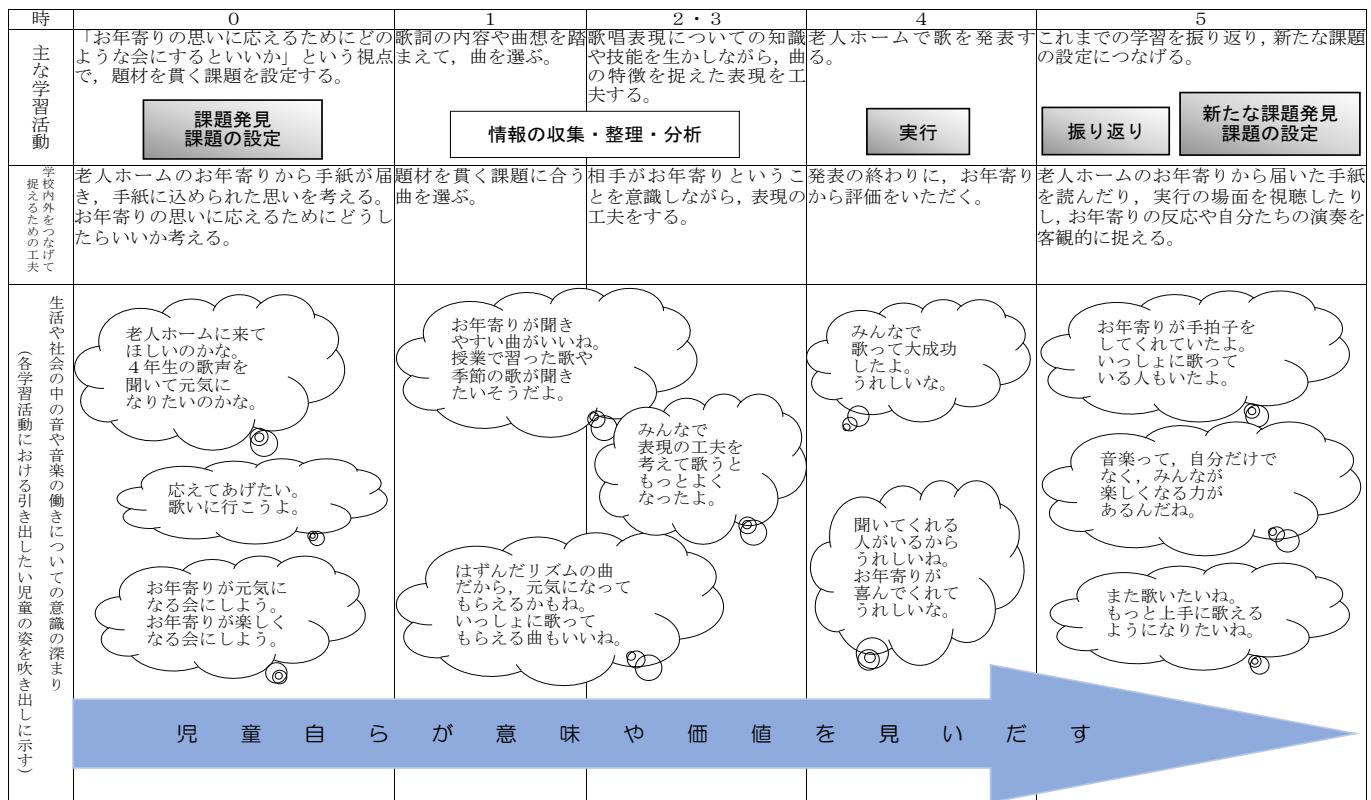


図2 「課題発見・解決学習」を取り入れた題材構成

手がお年寄りになることで学校外とのつながりを意識させ、歌唱表現の工夫も主体的に行うことができると言える。また、発表の終わりにお年寄りから評価をいただく場面を設定することで、自分たちの歌がお年寄りの心を動かしたことや、学校で学んだことが学校の外で役に立っていることを実感させることができると考える。

〔振り返り〕では、これまでの学習を振り返ることで、学校外の音楽活動で得られた喜びや音楽のよさ等について考えさせ、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めていく。お年寄りから届いた手紙を読んだり、録画した実行の場面を視聴したりし、お年寄りの反応や自分たちの演奏を客観的に捉えることで、音楽の意味や価値を見いだすことができると考える。また、ワークシートに個人の考えを書かせ、グループで協働することで個人の考えを深めることができると考える。さらに、「もっと上手に歌いたい。」「今度は○○の会で歌ってみよう。」といった思いを児童がもつことで、新たな課題解決へつながり、生活や社会の中の音や音楽に対する意識が広がっていくと考える。

これまでの考え方を踏まえ、本研究における「課題発見・解決学習」を取り入れた題材構成を図2に示す。

### III 研究の仮説及び検証の視点と方法

#### 1 研究の仮説

学校外における音楽活動を取り入れた「課題発見・解決学習」を行えば、学校内外の音楽活動をつなげて捉え、児童自らが生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めることができるであろう。

#### 2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表2に示す。

表2 検証の視点と方法

	検証の視点	検証の方法
視点1	生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めることができたか。	事前・事後アンケート
視点2	学校外における音楽活動を取り入れた「課題発見・解決学習」が、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めることに有効であったか。	ワークシート

### IV 研究授業について

期間	平成29年12月7日～平成29年12月21日
対象	所属校第4学年（1学級11人）
題材名	老人ホームのみなさんへ4年生の歌声を届けよう

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</li> <li>リズム、旋律、拍の流れやフレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</li> <li>歌詞の内容、曲想にふさわしい表現で歌っている。</li> </ul>
----	---

## V 研究授業の分析と考察

### 1 生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めることができたか

#### (1) 学校内と学校外の音楽活動をつなげて捉えることについて

事前と事後に行ったアンケート結果を、図3と図4に示す。

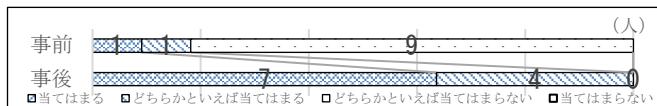


図3 ふだんの生活の中（学校外）で、音楽の授業で学んだことを生かしたことがあるか



図4 ふだんの生活の中（学校外）で、音楽の授業で学んだことを生かそうとしているか

図3から、ふだんの生活の中（学校外）で、音楽の授業で学んだことを生かしたことがあると肯定的に回答した児童は、事前では2人だったが、事後では11人全員になった。事前調査から、ほとんどの児童が、これまで学校内と学校外の音楽活動をつなげて捉えていないことが分かった。事後調査で、どんなことをふだんの生活の中（学校外）で生かしたのか聞いた記述では、11人中2人が家で家族に歌を聞いてもらったり一緒に歌ったりしたことを挙げ、9人が老人ホームで歌を歌ったことを挙げていた。このことから、本題材を通して、学校内と学校外の音楽活動をつなげたという意識が高まったことが分かる。また、図4から、ふだんの生活の中（学校外）で、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていると肯定的に回答した児童は7人から10人に増えている。このことから、本題材を通して、音楽の授業で学んだことを学校外の生活に生かそうという意識が高まったことが分かる。

これらのことから、児童は、本題材を通して、学

校内と学校外の音楽活動をつなげて捉えることができたと考える。

#### (2) 音楽に対する感性を働かせ、児童自らが生活や社会の中の音や音楽の意味や価値を見いだすことについて

事前と事後に行ったアンケート結果を、次に示す。

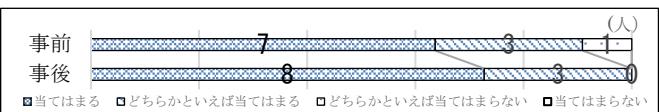


図5 音楽の学習をすれば、明るく楽しい生活に生かせるとと思うか

図5から、音楽の学習をすれば、明るく楽しい生活に生かせるとと思うと肯定的に回答した児童が、事後は11人全員になった。さらに、「どちらかといえば当てはまらない」から「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答になったA児と、「どちらかといえば当てはまる」から「当てはまる」になったB児の理由の記述を表3に示す。

表3 児童の理由の記述

	事 前	事 後
A児	無回答	きんちょうがほぐれる。
B児	歌を歌うと明るい気持ちになれるから。	音楽の力（元気・笑顔・楽しく）があるから。

事前に無回答だったA児は、事後は音楽のよさを理由に挙げ、B児は、事前では歌唱のことのみを挙げていたが、事後は音楽全般を捉えた記述をしていた。これらのことから、本題材を通して、音楽経験を生活に生かすことで、生活を明るく潤いのあるものになるという意識が高まったと捉える。

また、第5時のワークシートに書かせた振り返りの記述の一部を図6に示す。

- ・お年寄りのみなさんが喜んでくれてよかったです。
- ・お年寄りのみなさんが楽しそうで元気そうでした。
- ・お年寄りのみなさんが「楽しかった。元気になった。」と言つてくれたから、老人ホームに行ってよかったです。
- ・手拍子をしてくれてとてもうれしく感じた。
- ・手をたたいてくれたおかげで、教室で歌った時よりもっと上手にできて、楽しんでもらってよかったです。

図6 児童の記述の一部

図6の下線のように、音楽科の授業以外の場面で得られた音楽活動の喜び等についての記述が見られた。また、表4は、音楽にはどのような力があるかについて、第0時と第5時に書かせたワークシートの記述である。

表4 児童のワークシート

	第0時	第5時
C児	無記入	<ul style="list-style-type: none"> <li>人を喜ばせる力</li> <li>リズムにのって人を楽しくさせる力</li> <li>人を笑わせたり笑顔にしたりする力</li> </ul>
D児	<ul style="list-style-type: none"> <li>明日もがんばろうと思えるようになる。</li> <li>歌うと楽しくなる。</li> <li>リコーダーをふくと楽しくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両方が元気になる。</li> <li>両方が楽しくなる。</li> <li>きんちょうをやわらげてくれる。</li> </ul>

表4から、C児は、第0時は無記入だったが、第5時は音楽の力を書くことができた。また、D児は第0時は自分自身が感じる音楽の力のみを書いていたが、第5時は、下線のように、自分たちとお年寄りの両方にとって感じる音楽の力を挙げることができた。このことから、協働して音楽活動を通して、喜びを生み出すことができたと捉える。

これらのことから、本題材を通して音楽に対する感性を働かせ、児童自らが生活や社会の中の音や音楽の意味や価値を見いだすことができたと考える。

以上、(1) (2) より、児童は、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めることができたと考える。

## 2 学校外における音楽活動を取り入れた「課題発見・解決学習」が、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めることに有効であったか

### (1) 児童自らが課題を設定することについて

老人ホームのお年寄りから手紙(図7)が届き、その内容からお年寄りの思いに応えるためにどうしたらいいか意見を出し合っている、第0時の【課題発見】の場面を図8に示す。

図8のように、老人ホームのお年寄りからの手紙を読んだ後、手紙に込められたお年寄りの思いを考えるように促した。児童から、「おばあちゃんの気持ちに応えてあげたい。」「老人ホームに歌いに行きたい。」という発言があり、「お年寄りの思いに応えるためにどのような会にするといいか」という視点で、グループで話し合させた。

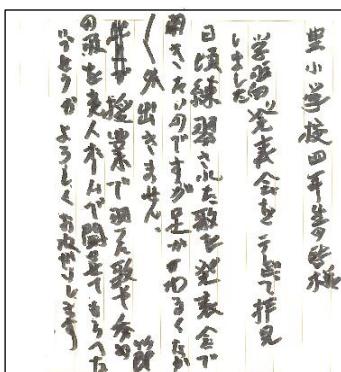


図7 お年寄りからの手紙

教師：99歳のおばあちゃんは、どんな気持ちでこの手紙を書いたのかな。
E児：老人ホームに来てほしいのだと思います。
F児：学習発表会をテレビで見て、歌声がきれいだったので前に聞きたいのだと思います。
G児：足がいたいから老人ホームに来てもらって4年生の歌声を聞いたら元気になれるかもと思っているのかな。
教師：何を聞きたいって？
児童：季節の歌。授業で習った歌。
教師：おばあちゃんの気持ちにどうしたらいいかな？
児童：応えてあげたい。助けてあげたい。かなえてあげたい。歌いに行こうよ。
教師：「老人ホームのみなさんに4年生の歌声をとどけよう」プロジェクトを立ち上げようか？
児童：そうしよう。

図8 【課題発見】の場面

図9は、グループの【課題の設定】の場面の様子である。

H児：お年寄りが、「来てもらってよかった」「生で聞くととてもいい歌声だった」と思える発表会がいいと思います。理由は、後悔させたくないし、期待に応えたいし、テレビで聞いたのよりきれいな方がうれしくなるからです。
I児：お年寄りが笑顔になる発表会がいいと思います。理由は、もし、せっかく来たのに笑顔なしで終わったら悲しいからです。
H児：後悔させたくないってところがわたしの似てる。
J児：お年寄りが元気になる発表会がいいと思います。理由は、もっとお年寄りのみんなが元気になってもらいたいからです。
K児：いいと思います。
J児：生で聞くととてもいい歌声だったと感想にあったらうれしいよね。
H・I・J・K児：「『来てもらってよかった』と思えるような発表会にしよう。理由は、生で聞くととてもいい歌声だから、聞かずに後悔させたくないから、にしよう。」

図9 グループの【課題の設定】の場面

図9のように、グループでは、常にお年寄りという相手意識をもって意見を出し合っていることが分かる。グループの協働が、下線のような他者の意見への共感を生み、次の学習意欲へつなげることができ、児童自らが課題を設定することができたと考える。それぞれのグループから出た意見を合わせ、題材を貫く課題を、「お年よりのみなさんが『来てもらってよかった』と楽しく元気になる発表会にしよう」に設定した。

### (2) 主体的に取り組むことについて

主体的に取り組むことについて、事前と事後に実行したアンケート結果を図10に示す。



図10 音楽の授業では、「やってみたい」「こうしたい」と思って学習しているか

図10から、音楽の授業では、「やってみたい」「こうしたい」と思って学習していると肯定的に回答した児童の人数は変わっていないが、「当てはまる」と回答した児童が、事後は7人に増えた。このことから、題材を通して、児童自らが課題を見付け、主体的に学習を進めようとする意識が高まったと考える。しかし、事前も事後も「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童と、「どちらかといえば当てはまる」から「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童がいる。この児童は、グループで伝え合う際に、自分の意見を十分に主張できていない実態があった。児童全員が意見を出せるよう指導の工夫をしていく必要があった。

次に、授業における児童の様子をア～エに示す。

#### ア 選曲について

第1時に、第0時に立てた題材を貫く課題に合う曲を、第4学年までの既習曲の中から児童に選ばせた。図11は、グループの話し合いの様子である。

L児：しろくまのジェンカは？♪タンタンタンタンしろくまさんは～（旋律を歌いながら）
M児：たしかにこれは楽しく元気になる曲だね。
教師：おお、キーワードに合っているね。
N児：お年よりも歌える曲をやってもいいよね。
L児：じゃあ、この中からはどう？
L・O児：♪あんたがたどこさ　ずいぢいぢっころばし～（旋律を歌いながら）
教師：お年よりもいつしょに歌ってもらうのもいいね。

図11 グループの話し合いの様子

図11の下線のように、児童は題材を貫く課題を意識し、歌って確かめながら選曲をしていることが分かる。最終的に学級の児童が選んだ曲は、表5のとおりである。

表5 児童が選んだ曲

曲名	選んだ理由
ちびっこカウボーイ	はずんだリズムにのって歌えるから。
しろくまのジェンカ	楽しく元気になれる曲だから。
あんたがたどこさ	お年よりのみなさんも歌える曲だから。
ふじ山	有名な曲で、お年よりのみなさんが分かりやすいから。
もみじ	季節の歌で、美しいイメージがあるから。
チャレンジ！	手紙に「学習発表会を見に行きたかった」と書いてあり、そこで歌った曲だから。はずんだ感じで元気が出せる曲だから。

#### イ 歌唱表現の工夫について

第2・3時に、前時に録画した自分たちの演奏を視聴し、「お年寄りの思いに応えるためには、曲の特徴ように気を付けて歌わないと伝わらない。」と課題を見付け、歌唱表現の工夫をしていった。表5

に示す曲の内、「ふじ山」の歌唱表現の工夫を書き込んだワークシートをもとに、グループで話し合っている様子を図12に示す。



P児：4段目は、曲の山に気を付けて強く歌うのがいいと思います。  
 Q児：うん、うん。  
 R児：日本一のふじ山の印象を強くするってこと？  
 S児：ふじ山の印象を強くするってところ、それいいね。  
 P児：4段目は、日本一のふじ山の印象を強くするために、曲の山に気を付けて強く歌うのがいいね。

図12 P児のグループの話し合いの様子

図12のように、P児は、「ふじは」のところに「曲の山、強く」と書き込み、「4段目は、日本一のふじ山の印象を強くするために、曲の山に気を付けて強く歌う。」と思いや意図をはっきりもつことができた。P児は、グループでの話し合いにおいて、自分の意見を伝え、図12の下線のように、友だちに認められたことで自信となり、主体的な歌唱表現の工夫につながったと考える。

また、聴き手が学校外のお年寄りということを意識した表現の工夫が見られた別グループのT児は、ワークシートの楽譜の出だし部分に「やさしく」と書き込み、「出だしを『♪あ～たまを』と大きな声で歌うと老人ホームの人がびっくりするから、『♪あ～たまを』とやさしく歌う。」と歌いながら意見を出し、グループの友だちから認められている姿が見られた。T児の意見をきっかけに、「老人ホームの人に歌うから、歌詞がよく伝わるように、すべての歌詞をはっきりと歌う。」という意見も出てきた。グループでの話し合いを通して、お年寄りを意識した表現の工夫が広がったと考える。

このように児童は、個人の思いをグループで伝え合い、歌い試しながら、主体的に歌唱表現の工夫を深め、学級としての表現をつくっていった。

#### ウ 実行の場面について

第4時の〔実行〕の場面では、学校内での歌唱表現の工夫を生かして、老人ホームで発表した。発表後には大きな拍手をいただき、お年寄りから、「とっても楽しかったです。」「私も昔の小さい頃を思い出しました。」と評価をいただいた。また、「握手をしてほしいねえ。」と児童に握手を求めて下さるお年寄りもいた。このようなお年寄りの自発的な行動に、児童も大きな喜びを感じ、お年寄りと児童の

双方が、充実感を感じることができていた様子だった。自分たちの歌がお年寄りの心を動かしたことや、学校で学んだことが学校外で役に立ったことを実感させることができたと考える。

## エ 振り返りの場面について

〔実行〕の場面に老人ホームで歌を発表したことを受け老人ホームのお年寄りから届いた手紙（図13）の内容と、実行を踏まえて行った、第5時の〔振り返り〕の導入場面を図14に示す。

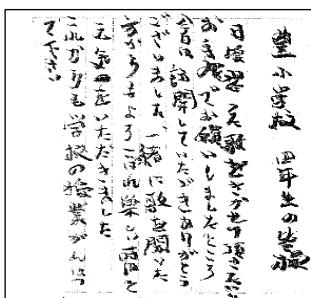


図13 お年寄りからの手紙

教師：届いたお手紙を読みます。～お手紙を読む～  
教師：プロジェクトを立ち上げた後、どんなキーワードを立てたかな。  
U児：お年よりのみなさんが、楽しく元気になる発表会。  
V児：お手紙に書いてあったよ。  
W児：「楽しい時間と元気をいただきました。」って書いてあるよ。  
児童：プロジェクト大成功。  
教師：大成功したのには、みんなの歌声に何か力があるのかな。それを見付けていこう。まず、老人ホームで歌った時のビデオを見てみよう。

図14 〔振り返り〕の導入場面

図14のように発表会の成功を確認した後、録画していた〔実行〕の場面を視聴した。視聴後、児童は「お年寄りが音楽に合ったリズムを打っていたよ。」「一緒に歌っている人もいたよ。」等、お年寄りの反応や自分たちの演奏を客観的に捉えることができた。その後、グループで音楽の力について話し合つた。図15は、グループの話し合いの様子である。

X児：音楽には、人を楽しくしたり元気にしたりする力があるよ。  
Y児：音楽には、人を幸せにする力があるよ。  
Z児：音楽には、人の気持ちを変える力があるよ。楽しくなったり、感動したりするよね。  
X児：なるほど。  
Z児：おばあさんが、昔を思い出したって言ってたよ。音楽には昔のことを思い出させる力があるんだね。悪い出を作るきっかけにする力もあるよ。」

図15 グループの話し合いの様子

図15の下線のように、児童は、生活や社会の中の音や音楽の意味や価値を見いだし、グループで話し合うことで個人の考えを深めることができていることから、振り返りの活動が効果的だったと考える。

また、「今度も歌ってあげたい。」「これからもみんなに歌声を聞かせてあげたい。」といった、新たな課題の設定につながるような振り返りの記述も

見られたことから、生活や社会の中の音や音楽に対する意識が広がったと考える。

以上、(1)(2)より、学校外における音楽活動を取り入れた「課題発見・解決学習」が、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めることに有効だったと考える。

## VI 研究のまとめ

### 1 研究の成果

学校外における音楽活動を取り入れた「課題発見・解決学習」は、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深めることに有効であることが分かった。

### 2 研究の課題

生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深める過程において、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を、十分に身に付けることができなかつた児童がいた。歌唱表現の工夫について深める場面で、歌い試すことをさらに促すとともに、適切に個別指導を行うなど、指導の工夫が必要であると考える。また、今後は、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識の深まりについて、系統性を考えた授業づくりの研究を進めていく。

### 【注】

- (1) 文部科学省（平成29年）：『中学校学習指導要領解説音楽編』p. 12に詳しい。
- (2) 中央教育審議会（平成28年）：『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』p. 47に詳しい。
- (3) 文部科学省（平成29年）：『小学校学習指導要領解説音楽編』p. 11に詳しい。
- (4) 広島県教育委員会（平成29年）：『平成29年度広島県教育資料』pp. 13-18に詳しい。
- (5) 広島県教育委員会（平成29年）：前掲書pp. 101-112に詳しい。

### 【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成29年a）：『小学校学習指導要領』p. 98
- 2) 文部科学省（平成29年b）：『小学校学習指導要領解説音楽編』p. 6
- 3) 文部科学省（平成29年b）：前掲書p. 11
- 4) 文部科学省（平成29年a）：前掲書p. 107
- 5) 文部科学省（平成29年b）：前掲書p. 113
- 6) 文部科学省（平成29年c）：『中学校学習指導要領解説音楽編』p. 97
- 7) 文部科学省（平成29年c）：前掲書pp. 103-104
- 8) 文部科学省（平成29年b）：前掲書p. 10
- 9) 中央教育審議会（平成28年）：『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』p. 163
- 10) 広島県教育委員会（平成29年）：『平成29年度広島県教育資料』p. 101
- 11) 文部科学省（平成29年b）：前掲書pp. 113-114